

遠い水の記憶

遠い記憶 その頃には
誰もいかない 彷徨うようにひたすら

晴れた海からやっと着いた
夕暮れ直近のシキ割の水に

冷たく心地よい刺激が喉を伝わり
生きてる喜びを感じさせてくれる

斜面に張った布のテント
引き寄せるキスリングが濡れてた

明日のことはなんとかなるさ
次の水場をひたすら求めて

真っ黒の夜空はとても怖かったけど
仲間もいた若かった
あの頃には戻れない

忘れていた素朴な遠い水の記憶に
大切なあの頃を思い出させてくれる